カばかりだったし、夫の両親は仮面夫婦で、家の中の雰囲気がすごく嫌だったって。だから、愛情がないのに無理して一緒にいるのはやめようって、約束したんです」と美咲さん。

結婚から2年ほどは夫婦二人だけの生活を楽しみ、美咲さんは31歳の時に第一子を出産。さらにその3年後に第二子出産。一男一女に恵まれ、夫婦共に仕事も順調。まさに絵に描いたような幸せな家族…のはずでした。

押し付けか、家族のためか

長男が小学校4年生、長女が小学校1年生になった頃、長男の中学受験をどうするかで夫婦の意見が対立。本人は受験に乗り気ではなかったようですが、「子どものために最善と思う道筋を作るのが親の務め」という美咲さんと、「本人の意志が最優先」という宗太さん。実は、それまでも夫婦の意見が食い違うことがあったそうですが、そのたびにちゃんと話し合って解決してきたと、美咲さんは言います。けれど、夫の宗太さんに聞いてみると、ちょっと話が違うようです。

「子どもの習い事や、家族旅行の行き先、日常のちょっとしたこと、夕食に何を食べるかといったことなど、何でも話し合ってはいますが、すべてを決めているのは美咲です。彼女は言い出したら引かないというか、自分の主張を曲げることがないので、こちらが引かざるを得ないんです」と宗太さんは言います。

美咲さんは「家族のためにいいと思うことを言っているだけ」と言うのですが、宗太さんは「自分の考えを押し付けてくる」と感じ、疎ましく思っていました。同時に美咲さんも、自分の考えに素直に同意してくれない宗太さんに、イライラを募らせていたのです。

また、「夫も家事や育児に手を貸してはくれましたが、最低限これだけはというレベルで、基本的には自分の仕事や趣味優先の生活を変えませんでした。結局、私は子ども最優先で次に家事、仕事。家の中のことで、私に決定権があるのは当然じゃないですか」と美咲さん。対して宗太さんは、「確かに育児や家事の負担は美咲のほうが大きいと思います。でも、僕が趣味優先なんてとんでもない。釣りだってスノボだって家族で出掛けています。彼女が娘と一緒にバレエのレッスンや公演を観に行くようになって、その間、僕は長男と留守番です」

長男の中学受験を巡ってはどちらも主張を曲げぬまま。意地の張り合いのようになっていく中、美咲さんは離婚を申し出たそうです。

「教育方針も食い違って、この先もいろいろ合わないところが出てくると思ったんです。〝価値観の違い〟って言うんですか。改めてそれがわかった